

道徳通信

であう・みつめる・ひらく

島本町立第二中学校
令和7年7月17日(木)
第 1 号

道徳科で学習する内容は、大きく分けて4つの視点(A~D)から捉え、それをさらに細かく分類整理しています。中学校では22の項目があり、それぞれを以下のようなキーワードで表されています。

A 主として自分自身に関すること

- (1) 自主、自律、自由と責任 (2) 節度、節制 (3) 向上心、個性の伸長
(4) 希望と勇気、克己と強い意志 (5) 真理の探究、創造

B 主として人との関わりに関すること

- (6) 思いやり、感謝 (7) 礼儀 (8) 友情、信頼 (9) 相互理解、寛容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

- (10) 遵法精神、公德心 (11) 公正、公平、社会正義 (12) 社会参画、公共の精神
(13) 勤労 (14) 家族愛、家庭生活の充実 (15) よりよい学校生活、集団生活の充実
(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 (18) 国際理解、国際貢献

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- (19) 生命の尊さ (20) 自然愛護 (21) 感動、畏敬の念 (22) よりよく生きる喜び

これらのキーワード(内容項目)は、人間として他者とよりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる内容を短く表したものです。道徳科で学んでいくための糸口となります。

「特別の教科 道徳」の授業を通して、自分自身を振り返ったり、たくさんの考えや思いにふれたりして、心の成長につなげてほしいと思っています。

道徳通信では、道徳の授業で子どもたちが考えたことや振り返りなどをお伝えします。生徒たちの考えを知り、一緒に考え、ご家庭やホームで話し合っただけいたら幸いです。

中学1年生

内容項目: 礼儀(B-7)

教材名: 「〇〇貯金」をはじめませんか

(『「愛情貯金」をはじめませんか』より)

あらすじ: あいさつが人と人との心の潤滑油であることを分かりやすく述べたエッセイ。できることから始めようという思いを抱かせる。



- ・あいさつは人とのコミュニケーションになると思った。あいさつ以外にも、言葉の言い方を考えてみるのはとても大事。
- ・あいさつは相手と仲良くなるために最初にできることだと思ったから、笑顔で相手に聞こえる声であいさつすると思った。された側も無視せずに返したらよりいい関係を築けると思うから、今までよりもっと意識してあいさつをしたい。
- ・あいさつはとても短い言葉である。1日の中でとても使うことが多くて、誰もが1回は言っている言葉である。だからこそ、そのあいさつをどのように受け取って、どのように返すかが大事だと改めて分かった。
- ・時と場合、場所などで言葉を選ぶ必要があると感じた。
- ・1つの言葉で人を幸せにしたり、悲しくさせたりできる。その言葉を幸せな方に使っていきたい。
- ・しっかり頭で言葉を考えてからあいさつをすることが大切だと感じた。日常で、仲がいい人には「あいさつはいいや」と思うことがあるけれど、どれだけ仲がよくてもあいさつは大事だと思うから、心を込めてハキハキとあいさつをすることを心がけようと思った。

中学2年生

内容項目: 真理の探究、創造(A-5)

教材名: 戦争を取材する

あらすじ: 自分の仕事や存在に悩んでいた山本美香さんが、息子を亡くし悲しむ父親の言葉をきっかけに、ジャーナリストとしての使命に気づく。



- ・自分で本当のことを追求することで自分の感じ方で感じられると思うし、もし知りたくなかったと思うことを知っても、受け入れることで人は成長するのではないかと思った。
- ・真実を知ることによって前へ進むのはもちろん、その時の状況を発信することで様々な人の気づきになって、より前へ進むことができると思った。

- ・真実を知るとするのは難しいし、リスクもあるけれど、困っている人が助かるきっかけになるということを知った。だから自分もこれからはネットなどの情報を鵜呑みにするのではなく、「真実」というワードを意識しながら生活していきたいと思った。
- ・新しいことや本当のことを知ることはやっぱり大切だと思う。たとえ嫌なことでも知らなかったというだけで真実は変わらないし、知っていることで広げることもできるようになるから。どんな話でも自分で真実をきちんと理解してから多面的に見るようにしたい。
- ・SNS やニュースだけに頼るのではなく、自分で真相を見つけることは大切だと思う。
- ・自分の考えだけでは世界は変わらない。だから真実を知ること、そこから何をしたら世界は変わるのか、今の世界には何が大切なのかなどを考え直すことができる。

中学3年生

内容項目: 勤労 (C-13)

教材名: あるレジ打ちの女性

あらすじ: どの仕事をしてもしも長続きしなかった女性が、レジ打ちを極めようと努力したことで、客の信頼を得て、仕事の素晴らしさに気づく。



- ・自分で仕事を選び、信念を貫けば、とても良い経験になる。成功すれば、自分に自信を持つことができると思う。
- ・「働くこと」の意義は人それぞれだと思った。自分が一番大切にしたいことを大切にしていきたいと思った。
- ・「働くこと」は誰かのために尽くすことだと思った。お金を得ることもできるし、「働くこと」をしている時点で、必ず誰かのためにはなっているものだと思う。
- ・すぐに諦めるのではなく、楽しさを見つけて働いていこうと思った。
- ・「働くこと」の意義とは、ただ仕事を「やらないといけないこと」と思わずに、自分で目標を決めて、それに向かって誰かのために自分が動くことだと思う。
- ・自分自身がその仕事をしていて誇りに思えるかどうか大事だと思う。
- ・「働くこと」の意義は人それぞれ違って、優先したいことも違って、どれが正解というわけでもない。自分の中で大切にしたいことを決めて、それを軸に将来頑張っていかなければならない。
- ・人によって働く意義は違うけれど、自分が楽しかったと思える人生になればいいと思う。
- ・「働くこと」の意義は人それぞれ違うし、違うからこそ、その1つ1つに意味が出てくると思った。また、働くことには人の役に立てたり、お金を稼げたりするから、悪い部分を見つけるのではなく、良い部分に焦点を当てて行動することが大切だと思う。

最後に、相田みつをさんの詩を紹介します。

花を支える枝
枝を支える幹
幹を支える根
根はみえねんだなあ
みつを

外からは見えませんが、木を支えているのは、地面の中の「根」です。大きな木であればあるほど、太い根が地面に張っています。そして、たくさんの花を咲かせたり、実をつけたりしています。

人の心も外からは見えません。みなさんの心は、今どのくらい大きく育っていますか。

そして、みなさんの人生にたとえるなら、見えない「根」とは何ですか。